

KAS

風の谷 びゅう **VIE**

社会福祉法人 風の谷
相模原市中央区田名7236-3
発行責任者 政野 光廣
042-760-1033
<http://www.kanagawa-id.org/yamabiko/>
e-mail: ykoubou@pastel.ocn.ne.jp



新年あけましておめでとうございます！ 2016年も風の谷をよろしくお祈いします

平成27年度作品展 石崎将史さんの作品

【2016年 新春号】

◇巻頭文	P 2	◇自閉症支援センターより	P 3
◇特集 <食事について>	P 4・5	◇自閉症について	P 6
◇ヘルパー便り・グループホーム便り	P 7	◇後援会のページ	P 8

発行人 神奈川県自閉症児・者親の会連合会 代表者 内田照雄 〒243-0035 厚木市愛甲2-11-6-109
毎月15日発行 購読料1部 15円

年頭雑感

理事長 政野光廣

新年あけましておめでとうございます。

平成28年の新春を迎え、皆様には新たな気持ちでご活躍のことと心よりお慶び申し上げます。

昨年は社会福祉法人風の谷に多大なるご理解とご支援を賜り心よりお礼申し上げます。

「安」という字は施設運営に関わる私達にとって、安寧、安心、安全と大切にしたい事柄に繋がる字です。昨年の世相を表す漢字1文字は「安」という字に決まりました。

「安法制」、パリ同時多発テロなど頻発する暴力への「不安」、また杭打データの偽装による安心・安全への不信などと、新しい年には早く払拭したいとの思いが込められているとの事です。私が最も驚いたのは川崎市の有料老人ホームでの利用者への暴言、虐待でした。利用者へ提供すべき、安らぎや安心、安全とはかけ離れた介護職員の倫理感、責任感の欠如です。いったいあのような行為は何故起きたのか、施設内での相互のチェックは、日頃の教育や研修が成されていない実態に驚きました。あまりにも杜撰な運営企業の体質に施設運営に関わるものとして怒りを覚えた次第です。

さて、私達の「風の谷」の昨年の出来事を振り返ってみますと、なんとと言っても3月に麻溝台にオープンいたしました第二やまびこ工房の事業開始でありました。二つ目の拠点を開始することで一層の支援の充実が図れるのか！職員配置での運営上の課題は！などと幾つかの不安を抱えながらのスタートでしたがここに来て、職員からも第二やまびこのビジョンをと声がるようにもなりました。利用者に寄り添った支援の一層の充実を進めて行きたいと思えます。

また、10月、11月と新しい職員を迎えることが出来ました。面接で感じたことは何よりも障がい者支援に関わる職責にプライドを持って自分を研鑽しスキルを身につけたいという思いや、利用者が安心して通って来られる支援を提供したい。利用者の喜びが自分のやりがいや喜びに繋がる仕事をしたいとの思いに頼もしさを感じました。職員のこのような思いに応える環境作り、人材育成も法人の大きな役目であることを痛感いたしました。

「すべての活動は利用者のために！」を運営の原点とし、職員と共に確認し合い、一層の研鑽を積み、魅力あるサービスを提供すると共に利用者満足度の高い法人、施設運営を目指したいと思えます。このことが、本来の「安」と言う字の持つ、安寧、安心、安全に繋がる訳ですから！

最後になりましたが、皆様方のご健康とご多幸を心からお祈りいたすとともに、一層のご支援とご協力賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

今年もやります！地域交流バザー！！

日程：6月5日 日曜日（予定）

決定次第、HPにてお知らせ致します。

会場：やまびこ工房（相模原市中央区田名 7236-3）

皆様のご来場、心よりお待ちしております。



相模原自閉症支援センターより

“強度行動障害”という言葉が支援度の高い方の受給者証に明記されるようになった。それはひどい自傷や強い他害やもの壊しがあったり、強いこだわりがある方に対し用いられている。

昨年(2015年)の10月に第一回神奈川県強度行動障害支援者養成基礎研修(2日間)が行われ、12月に第二回が行われた。その研修に多くの方が申し込まれ、受講できたのは一回、二回を合わせて260名くらいだったと思う。受講できなかった方が多数いたため、3月にも追加で第三回が行われることになった。どのような研修かという強度行動障害になってしまう方は障害理解されない状態で生活していることが多く、そのために問題となる行動を起こしてしまう。障害理解し、適切な支援を行えば、行動障害は軽減し、虐待もなくなるというものである。実はその障害理解の大半は自閉症に関するものなのである。

自閉症者に関わり始めて10年以上過ぎた。当初は自閉症を少しでも深く理解したくて皆が大変と言う方に関わるのがよかろうと考えた。まずは自傷の激しい方に関わらせてもらった。特定の支援者が居なくなると、頭を叩いたり、壁に打ち付ける。それを見て、誰でも安心できる支援者と思ってもらえる支援をしようと決めた。こちらを向いてくれた時は逃さず、目を合わせる。そのうち質問をしてくれるようになって、すぐに応じる。週末は行動援護サービスを利用して出かけた。食事が口に合わないと思われて悪くするので、本人の好きそうな別のメニューを自分は注文し、いつでも取り替えられるようにした。美味しそうに召し上がっていると安堵し、食事を楽しんだ。自傷が1週間ないと嬉しかった。1ヶ月、2ヶ月と長くなり、他の支援者とも関われるようになっていった。

そんな時、ある利用者が椅子を投げ、他の利用者にあたり怪我をした。次の自分の目標となった。パニックになると噛む、叩く、蹴る、もの投げがあった。その当時の頻度は週に少なくとも2~3回だったと思う。昼食時に特にパニックになることが多く、お皿や椅子が壊れた。やまびこ工房は特別食が用意されていて、通常食を食べるか、特別食の餃子か豚肉炒めかを選ぶというのが前任者からの引き継ぎであった。しかし、豚肉炒めを選んでいても食事中にパニックを起こすことがあった。食事の様子を見ていると豚肉はお茶で流し込んでいることに気付いた。また嫌いでも通常食を食べるこだわりが強いことにも気づき、食事の選択は中止した。そのような対応をしているとパニックの頻度は減ってきた。それと同時に本人の眠気も強くなり、眠気が強いために本人のこだわりが実施できずパニックになることもあったので、精神科医に減薬の提案もした。

自分の対応も変えた。ある研修を受けていて、自閉症者支援の方法は多々あるけど大事なことは本人にとって安心できる存在になることという趣旨のお話を伺った。それまでは、本人の調子が悪いと判断すると自分はどんな動きでもできるような精神状態になっていて、きっとアドレナリンが出ている状態で、パニックになった利用者に対応しても怖くはなかったし、動きも驚くことにゆっくり見えた。安心できる存在になりたいと思ったから、調子の悪い時の見守り方の心を変えた。“自分がいるから大丈夫”という眼で見守るようにした。アドレナリンが出ていないので、怖くもなくなったし、利用者を信じなくては怪我をしてしまう。確かに怪我もした。しかし、調子が悪くなると自分を探しにくるようになった。だからしばらく近くで見守った。30分もすると笑顔が出てきた。そして離れた。

大変な方と言えば、そうなのかもしれないが、本人の気持ちを理解したいと思って接すれば応えてくれて、自己満足かもしれないがわかりあえたという感動もあった。“強度行動障害”というレッテルは何か違和感を覚える。しかし、大げさな問題として扱わなくては、全国的な研修とはなり得ず、例えば“自閉症者の素晴らしさを知る支援者養成研修”では残念ながら広まらないのかもしれないし、受講への必須感がない。

大局的視点から虐待を無くしていくためには障害理解が重要だと考え、神奈川県での研修実施にまで漕ぎ着けた横浜やまびこの里や藤沢育成会の方には頭の下がる思いである。自閉症者の専門施設である風の谷としても遅ればせながら研修に協力させてもらっている。今までの経験を伝え、内部的にも自覚を持った支援に取り組んで行きたいと思う。今年(2016年)の目標である。(薬師丸)

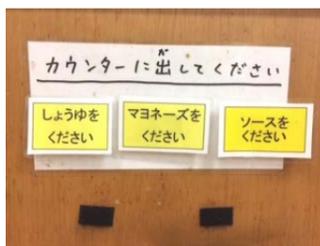
「いただきます！」のその前に…

～やまびこ工房の食事について～

コミュニケーション

口頭でのコミュニケーションが苦手な方が正確に希望を伝えることが出来るように、文字がわかる方には文字カード、絵の方がわかりやすい方には絵カードを使用いただいています。

またカウンターでの言葉のやり取りについても、やまびこ工房からキュービック相模原のスタッフに気を付けるべきことを伝えて、安心して食事に入れるよう配慮しています。



食事場所の工夫

周りの音や声、視覚的な刺激が苦手な方には、窓側を向いた席やカーテンで仕切った個別のスペースで食事をしていただいています。また、食堂で他の人と一緒に食事が難しい方は、食堂以外の安心出来る別のスペースで食事をしていただいています。さらに、区切られたスペースを食堂内で作るための衝立も用意しています。

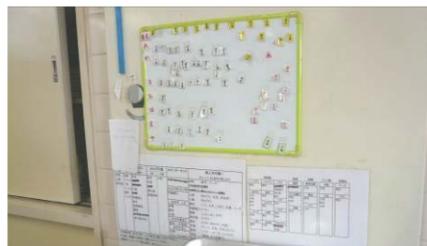


やまびこ工房での食事への取り組みを紹介する前に、少し想像して欲しいのです。
「今あなたは、外国のレストランに入りました。メニューを見てもどれが何を示しているのか分からず、店員に訊いても言葉が通じません。周りにはびっくりするような大声を出したり動き回ったりしている客がいて気になってしまいます。あてずっぽうで注文した料理が運ばれてきましたが、どんな食材が使われているのか見当もつきません。」

自閉症の方々が安心して食事を楽しむために、どんな準備が必要でしょうか？偏食の多い方は、子供のころから全部食べるよう言われ続けていて、「嫌いなものが出たらどうしよう…」と強い不安を感じているかもしれません。聴覚過敏の方は、ホールのような広い食堂の中で響く他の人の声がどうしても気になって食事どころではないかもしれません。またある方は、盛られたご飯が少ないのを見て、もっとたくさん食べたいのうまく伝えられなくて困っているかもしれません。

やまびこ工房の食事は、そんないろいろな「～かもしれない」を想定して、厨房を担っている「キュービック相模原」のスタッフと話し合いを持ちながら作ってきた食事です。そのスタッフが一人一人の好き嫌いまで理解して、細かな注文にも応えてくれるからこそ利用者が笑顔で食事を楽しむことが出来るのです。

今回はそんな楽しい食事をめざす準備のいくつかを紹介します。



上のホワイトボードに貼ってあるのが名前シール。下の表は個別の好き嫌い一覧表です。



メニュー・食器の工夫

苦手な食材を抜いて提供する方、食材を小さくカットし食べやすく提供する方、決まった個数のみ召し上がる方など、利用者の好き嫌いやこだわりを考慮して一人一人が安心して食事できるような工夫をしています。食事量の調節も体型や年齢に合わせて、本人が満足できる量を考えながら個別に行っています。

また、どうしても食べられないメニューの日のために、特別食がいくつか常に用意してあり(カレーライス、餃子、うどん、そば、玉子焼きなど)その中から選べるようになっています。

食器についても、使用が難しくタッパーを使用して食事をされる方、フォークやスプーンを使う方、お盆に食器を載せた時ガタガタすると気になってしまうので座りの良い食器のみ使う方など様々です。



右は通常メニューの「カジキの香り天ぷら」
左は特別食の「カレーライス」です。



一見何も変わったところがないように見えますが、お椀が小鉢になっています。お椀を噛んで割ってしまう方のための配慮です。

食事順の工夫

やまびこ工房では、大きい声が苦手な方や、場面の切り替えが苦手で緊張が強くなる方、周りの利用者や職員が気になる方、食事に時間を要する方等様々な方がいらっしゃいます。食事は一斉に摂ることはせず、各利用者のペースやタイミングに合わせ、11:30 から 14:00 の間で安心して食事していただける順番や時間帯を工夫しています。静かな環境が好きな方は、混む時間帯を外して食堂に入ります。食事にかかる時間も、5分で終わってしまう方から2時間かかる方まで大きな差があります。

自閉症について

～研修報告「強度行動障害支援者養成基礎講座」～

平成27年10月19日(月)、20日(火)二日間に渡って、強度行動障害支援者養成基礎研修へ参加させていただきました。日常的に接する機会を頂いている自閉症の人たちには、この世界がどのように見えていて、私たちの働きかけがどのように感じられているのかを、より想像しやすくなる、一步自閉症者の世界に近づけた気がする研修でした。

一日目は演習を中心に行われ、自閉症の方がどのような感覚をもっているのか、三つ組(社会性、コミュニケーション、イメージーション)と言われる障害特性が実際の暮らしの中でどのように影響を及ぼしていて、どのような生きにくさにつながっているのかを実感できる内容でした。

具体的には、シングルフォーカス、視野の狭さが一つの特徴として挙げられますが細長く丸めた紙で周りを見ながら、物を探したり、隣の人とじゃんけんをしたり、知識としてなんとなく知っていた障害特性が実感でき、現在行っている支援方法を見直し、反省する機会となりました。また、聴覚過敏、音の刺激を制御できないといった部分では一度に6名以上の人たちから別々のテーマの話がされ、どのくらい聞き取れるかといった演習から自閉症の人が経験しているであろう、音の洪水の状態を体験させていただきました。

自閉症専門をうたう当法人で長年勤めさせて頂いたことで一通りの知識は得てきました。しかし、それを実感として現場で接する皆さんがもつ感覚というものを体験させて頂けたのは、今後の支援に間違いなく生かすことのできる貴重な経験になったと思います。

そして、二日目には講義中心の内容となりましたが、他事業所の取り組みの内容を聞かせて頂いたり、他施設を利用されている方の行動を録画したものを観て、どのような支援計画が考えられるかといった実践的な内容がありました。その支援計画作成をグループワークとして行い、他の事業所の方と相談しながら進めていく中で、それぞれの持ち味、安全面の配慮、作業内容の充実、分かりやすい提示(構造化)等々、それぞれのバックボーンになっている日々の取り組みが、こういったアイディア出しの際にはとても力を発揮するということが分かりました。そして、何よりもその利用者が何を得意としていて、何に困難を抱えているのかといったアセスメントがベースになって組み立てが行われるということは、知的や身体障害、または老人介護の分野でも共通する点であること、その人を知ることから全ての支援はスタートする、その評価を誤ると間違った支援につながっていくということを実感させていただきました。

一番印象深かった講義が虐待防止に関するものでした。これまでも虐待に関する研修は受けさせて頂いていましたが、自身で人にされたら嫌な事を書き出し、それを利用者に行っていないか、周りで行われてはいないか、とのアンテナをもつことと、どこまでも利用者の側に立ち、万一、虐待が起きてしまった時には即座に報告し、再発防止の具体的な行動を起こすことの大切さを再確認しました。支援者と言われる立場の人間は、どんな考えがあっても利用者との間に対等関係は起こりえないとの基本姿勢に立つことから、日々の自身の行動を省みる姿勢が生まれてくることを再認識し、帰りの電車内では様々、自身の日頃の行動を振り返りながら、利用者の暮らしの中でその意思が実現されるように取り組んで参りたいと気持ちを新たにさせて頂きました。

二日間の研修でしたが非常に充実した内容でした。講師の方、運営スタッフの方、資料準備等、たくさんの方の情熱を頂いたような研修でした。

これを同僚にもきちんと伝えながらより利用者の側に立った支援に取り組んでいけるよう努力して参りたいと思います。(野田)

ヘルパー便り

利用者Fさんのガイヘルプランを0から作ることになりました。当時Fさんは第二工房に移動されたばかりで、いろいろと不安を抱えていました。もともと第一工房にいた時からガイヘルを利用されていたので、タイミングを見計らい実施することにしました。まず、初めて第二工房から行うという事で、Fさんにとっては不安が生じます。ご家族とも相談し、負担の少ないコースにすることに…。「第二工房から近くのマクドナルドでおやつを食べ、そこからバスで自宅に帰る」というプランにしました。事前にご家族と相談をして、好きな物や好きな事のヒアリングをしました。その中でFさんはマクドナルドのポテトやナゲットが好みで、その内容があれば間違いないという事がわかりました。プランに“楽しみ”を取り入れ、ガイヘルへの不安感を払拭してもらいたかったのです。いざガイヘル当日になると、Fさんのスペースに貼ったスケジュール表を指さして、楽しみにされている様子が伺えました。次の日にご家族からガイヘル後の様子を伺ったところ、初めてという事もあり疲れた様子は見られたものの、不調になる事もなく、程よく疲れてぐっすり眠れたようです。

それからというもの、毎週火曜日のガイヘルを楽しみにされるようになりました。プランの数も当時は1つだったのですが、今となっては7つになり、毎週楽しみにされています。もちろん、各プランにはFさんが“楽しみ”にできる要素を組み込んでいます。そして、毎回ガイヘルを終えて、次の日には担当したヘルパー、ご家族と「今回のプランは何が良かった」「ここはこうした方が良い」「ここではFさんはこうだった、ああだった」とヒアリングをして都度改善出来ていると実感しています。

今後も“楽しみを活動に”をモットーにヘルパー、ご家族と相談しながら利用者にとって最適なプランを提案していきたいと思っております。(八木)



ナウシカ便り



明けましておめでとうございます。今回2016年最初のナウシカ便りはなんとクリスマスのお話です。(いまさらクリスマスの話なんか…なんて事言わないで下さいね)

よく自閉症者は変化する事が苦手と言われます。それは慣れない事、新しい出来事に不安を感じ、慣れ親しんでいる物事を好む傾向がある為にそう言われています。

そのような特徴にのみ注意が行ってしまうと、どんなときでも普段の生活を崩してはいけなく、ましてやクリスマスなど以ての外だ！なんて思われるかもしれませんが決してそんな事はないのです。

今回初めてナウシカにツリーを設置致しました。もちろん皆さんには色々協力してもらいました。飾りを一緒に作る、作った飾りを選びツリーに取り付けるなどそれらの活動は普段の生活では行わないものでしたがそれでも飾りの作製に興味深そうにされる方、出来上がった飾りに満足そうな笑みを見せる方など、皆さん好意的に受け入れて下さったと思っております。

みんなで作ったクリスマス。当然当日は不安になられる方は誰もいません。世界で一つのツリーと共にチキンやケーキを食べるスペシャルな1日となりました。(田辺)

後援会のページ

皆様明けましておめでとうございます。

皆様はどのようなお正月を迎えられましたでしょうか。我が家ではテレビで駅伝を観るのが恒例。ただ息子は年賀状の届くのが楽しみで元旦の朝からそわそわしています。

さて昨年洪水やテロ等の暗いニュースが度々流れました。政治の世界も大揺れで不安な一年でした。息子は特に暗いニュースが苦手です。耳にすると強い不安感に襲われるので、彼が家に居る時はニュース番組厳禁です。

それにしても人間が起こす悲惨な争いや事件だけでも少し減らせないものではないでしょうか。国も個人も欲望や憎しみを脇において今より少し優しくなれば、幾分かでも良い世の中になるのではと思います。

一方昨年の大村・梶田両教授のノーベル賞受賞は私達に明るい光を届けてくれました。特に大村教授は相模原市にご縁もあり、市民として誇らしい思いがしました。

私は息子が平穏な気持ちで一年過ごせる様願いながら、自分の周囲に小さくても優しい光を届けたいと思って居ます。

最後に今年皆様にとって幸多い事をお祈りいたします。

風の谷後援会会長 堀田脩司



平成27年9月11日～12月7日現在（五十音順敬称略）

【新規個人】

（相模原市）

村田薫

（相模原市外）

山田美和（品川区）

【更新個人】

（相模原市）

岩崎圭子 齊藤多賀子 縄島健一 西田明美 野口和代 柳場秀雄

（相模原市外）

有路富夫（海老名市） 石渡和実 柳井晶子（横浜市） 上城和子（北九州市） 上城敏明（町田市）

浅羽昭子（横須賀市） 上野悟（川崎市） 源新和子（盛岡市） 済田順子 済田安司（世田谷区）

藤野喜友（厚木市）

風の谷後援会のご案内

風の谷後援会は、自閉症者の自立と社会参加を目指す『社会福祉法人 風の谷』を支援することを目的にしております。主旨に御賛同頂き、皆様の温かい御支援を頂きますようお願い申し上げます。

一般会員 一口：3,000円／年間

団体会員 一口：10,000円

※一口以上、何口でも承ります。現金を添えてのお申し込みも承ります。

＜お問い合わせ先＞

『風の谷後援会』事務局

〒252-0244 相模原市中央区田名 7236-3 社会福祉法人「風の谷」内

TEL：042-760-1033 FAX：042-760-7115

郵便振込先 口座番号 00230-1-15345

他の金融機関からの振込先 ゆうちょ銀行 9900 店番 029 当座 0015345